

そろばん静岡
大垣憲造
児島空港
リムジンバス
券購入
てくられる人
れがいて、知ら
も気持ちが和
距離の間、景色
が感覚られ、声
的と分かり、会
話がはずみました。
先にホテルのチ
エックインを済
ませて、会場の
ある「鹿児島市
民文化ホール」へ。
歩いている人々の、
指すところは同じ。
鹿児島支部の先
生と一年ぶりに挨拶
を入れると、目の前
に支部の先生方を見
つけ、改めて、やつとたどり着いた
安心感が生まれました。
深澤、栗田副支
部長に並ばせて
いた、「珠算指導者教養講座」が

一人旅の心細さを抱えて自宅を出
てから五時間余り、迎えてくれた鹿
児島空港の風はとても暖かでした。
リムジンバスの乗り場では、乗車
券購入をせかせかと元気良く手伝つ
てくれる人がいて、知らない土地で
も気持ちが和みます。一時間程度の
距離の間、景色に目をやりながらも
車内の様子に耳を傾けると、この方
達も研究集会なのでは?という気配
が感じられ、声をかけてみて同じ目

「全国珠算研究集会」に参加して

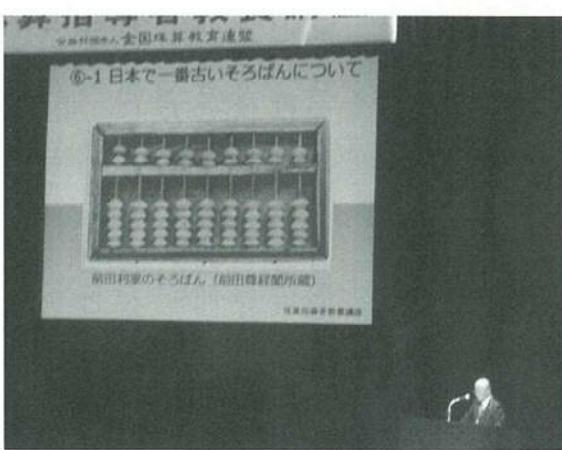
東豆地区 里見恵子

始まりました。

講師は、大阪府支部の大垣憲造先
生。「そろばん資料館」の開設記念
誌にも書かれましたが、ルーツとさ
れるメソポタミアの砂そろばんから
始まり、中国そろばんが日本に伝來
した歴史などを様々な文献によつて
実に詳しく調べられています。日本

最古のそろばんとしては、前田利家
よりも一年ほど前に、黒田官兵衛の
家来の一人が秀吉から授かっていた
「拝領そろばん」なるものがある事
を初めて知りました。他にも、四ツ
玉そろばんは江戸時代からあつたと
いう証拠が残されているのに何故普
及しなかつたのか、そして競技会も
この時代から行われていたという古
い歴史にも驚かされ、「いつの世で
も人と技を競うことは面白く、珠算
技術の向上にも役立つていたわけだ
ある。」と大垣先生は述べられてい
るのですが、全く持つて同感です。

講師は、大阪府支部の大垣憲造先
生。「そろばん資料館」の開設記念
誌にも書かれましたが、ルーツとさ
れるメソポタミアの砂そろばんから
始まり、中国そろばんが日本に伝來
した歴史などを様々な文献によつて
実に詳しく調べられています。日本



発行者

一般社団法人 静岡県珠算協会
公益社団法人
全国珠算教育連盟静岡県支部
(静岡市駿河区八幡2丁目)
茂夫 松村 増久
発行人 編集人 アード・アール株式会社
印刷所

最後に、鹿児島を語るには欠かせない維新の英傑、西郷隆盛とそろばんの繋がりを歴史上のエピソードとして話され、「歴史は常時変化するものと認識し、好奇心を常に失わず冷静に研究を続けて行くことが大切。」と結ばれました。

大垣先生からは、本当にそろばんを愛されている気持ちが伝わります。この歴史上のそろばんが所蔵されている博物館を知れば、国内はもちろん海外にまで出向くという、その行動力にも感心させられます。実

は私は、小学校へのボランティア授業の際に、子供達へのつかみの部分で参考にさせていただければ・・くらに思つて席に着いたのですが、次第にお話にのめり込み、まさしく「教養講座」となつたのでした。

翌朝は雨模様でしたが、研修会場に向かう頃には晴れ間がさし、持参の傘も出番がないほどになつていました。富士地区の松本先生、国分先生ともご一緒させていただき、研修二日目です。

講師は西郷隆文氏。

曾祖父であり、維新のリーダーである西郷隆盛を育んだ薩摩の「郷中教育」とほどのようなものであつたか。その基礎たるものは家庭が教育の場であり、「負けるな、うそを言ふな、弱い者をいじめるな」と母親が躰けたのだそうです。贅沢を言わざ質素を尊ぶという教育が、「郷中の教え」である武士道精神として生かされ、家の宝でありながら社会でも確実に存在する人物に成長していくということです。男尊女卑の時代でありながらも、武士である男子の働きは母親の手柄とされたようですから、救われる思いだつたでしょうか。

教材展示会場では、そろばん玉を使つたアイデア溢れる品々に目を見張り、会場の周囲を散策しながらホテルへ戻りました。

そして、薩摩焼の種類や特徴について話されたのですが、窯元の数は全盛期の半数近くまで減少しているのだそうです。やはり時代の波には逆らえず、不況が原因だと聞き、他人ごとではないと複雑な心境になりましたが、話題をその日の天気へと移し、「鹿児島では、朝少し降った雨が晴れに変わるのはとても良い日なのです。」と笑つて締めくされました。

休憩時間には、浜松地区の桂先生、志太櫻原地区の久保寺先生、鈴木先生、青木先生とも合流して記念写真に納まり、カラフルなお弁当をお日本下でいただきました。

午後からは、鹿児島県支部の戸山沙織先生が、発達障がいのお子さんについての研究に取り組まれ、発表されました。「発達障がい」という言葉は見聞きしたことはありますか、その中には「読字・書字・算数」などに別れ、それぞれに障害の特徴があることを知りました。ご自分の教室に通われている男の子をきちんと理解され、トラブル時などその時々の対処法を考えてこられたようですね。「グレーゾーン」即ち、もしかしたらそうなかもしないお子さんがいる場合、親御さんがそれを認める、認めないによつても対処法が違つてくるのは確かだと感じました。戸山先生は、障害のある子というのではなく「高い壁を乗り越え

する能力を持つ子」という見方をすれば……と言われます。「障害だけに捉われない。特別扱いをしない。個性・長所を見つける。繰り返し根気強く。能力を伸ばしてあげる手伝いをする。」とまとめられた時には、どのようなお子さんに対しても通じることではないかと、自分に言い聞かせるつもりで書き留めました。

あつという間の一時間でした。その後、算数モデルなどがてきぱきと説明され、閉会の時を迎めました。

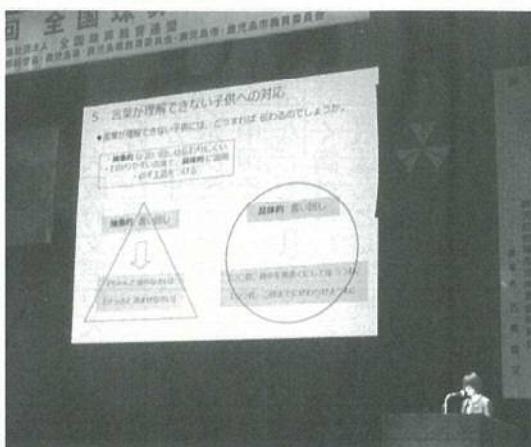
志太櫻原地区の姪御さんと薩摩県の珠算研究集会に出席してきました。立春を迎えて、まだまだ寒さが厳しい、二月十四日(土) 静岡県珠算会館で、ブロック別研修会が開催されました。

私は、父のそろばん塾を手伝つて、株式会社ツーネットの石井孝幸社長が講演されました。

「新しい珠算学習の展望」と題して、皆さんはよくご存じの株式会社ツーネットは、文具・教材・表彰品などを扱う豊橋市の会社で起業から二十五年経つているそうです。

石井社長は、元は愛知県庁の職員だったそうですが、「まあ、二年もてばいいかな。」という気持ちで起業されたということです。

何故、人気が下降気味の商売に手をつけられたのか、私は非常に不思議に思い、訪ねてみると、石井社長は、「人気がある物に手を出せば誰でもうまくいく。けれど、うまくいかなくなつた時には、苦労をしていなかつたので、行き詰まつて、非常に



**「ブロック別研修会」を聞いて
—創意工夫の人、石井孝幸社長—**

志太櫻原地区 長倉まり子

立春を迎えて、まだまだ寒さが厳しい、二月十四日(土) 静岡県珠算会館で、ブロック別研修会が開催されました。

私は、父のそろばん塾を手伝つて、株式会社ツーネットの石井孝幸社長が講演されました。

「新しい珠算学習の展望」と題して、皆さんはよくご存じの株式会社ツーネットは、文具・教材・表彰品などを扱う豊橋市の会社で起業から二十五年経つているそうです。

石井社長は、元は愛知県庁の職員だったそうですが、「まあ、二年もてばいいかな。」という気持ちで起業されたということです。

何故、人気が下降気味の商売に手をつけられたのか、私は非常に不思議に思い、訪ねてみると、石井社長は、「人気がある物に手を出せば誰でもうまくいく。けれど、うまくいかなくなつた時には、苦労をしていなかつたので、行き詰まつて、非常に

大変なことになる。

そこで逆転の発想をもつて、あえて下降気味の商売をやつてこそ創意工夫が必要とされ、真の力が試され、やり甲斐がある。そこを乗り越えていければ、誰にも負けない実力がついて、伸びていける。」

ど思われたそうです。

「うちは静岡で育てられたと言つても過言ではない。」と言う石井社長は、起業から毎日のように静岡に通い、「軒一軒、顧客を増やしていく」そうです。石井社長の、仕事に対する情熱とチャレンジ精神を垣間見たように思いました。そこには、相当な覚悟と苦労があつたことは、充分に想像されます。

案の定、石井社長は、北は北海道から、南は沖縄、果ては海外まで、一日に数千キロも走りまわつて商売されたこともあるそうです。その熱意は、目の前の石井社長の穏やかな紳士の風貌からは、かけはなれていて不思議でした。

いろいろな事に手を出した、とおつしやる石井社長は、たとえば、英単語をたくさん覚える教材なども発案されました。時期尚早、その時は商売にならなかつたそうです。今、やつと小学校でも英語が必修となり、今ならば、とも思えますが、時期が早いと思えば、すぐに手を引き、今すぐ必要とされているものは何か、という発想をされてきたそう

です。

平成二十七年度より採用される小学二年の算数の教科書に「計算ゲーム」というページがありますが、既に石井社長は「ナインブレイク」なるものを、何回も改良して出されておられます。

また、そろばんの国産原料が高騰している昨今は、中国まで出かけて、そろばんを仕入れて来られたそうです。

ところが、現地ではすべりがよかつたのに、いざ仕入れてみたそろばんは、玉が一緒に動いてしまい、樽に水を張つて漬けてみたりもした

そうですが、使い物にならず、「五千丁を捨てました。」と事もなげに話されていました。

私などは、ダメだ、と思うと、すぐにはクヨクヨ、めそめそ、文句ばかりですが、石井社長は、割り切ることは割り切つて、次に活かして行こうという、その発想の転換が速く、私も見習わなければ、と思いました。

毎日が切磋琢磨の日々であるといふ石井社長は、

「これからそろばんは、そろばん式暗算の時代です。伝票暗算こそ、これから珠算の柱です。」

とおつしやっています。

なるほど、手元に伝票暗算を持つていればいつでもどこでも練習できます。いわば、フラッシュ暗算のアラログ版、と言えそうですね。

また、現在の珠算教材は大昔からある、毎日毎日、生徒が通っていた時代の物なので、生徒が週に一、二回しか来られないという、今の時代には、もつと工夫が必要なのではないか、と話されました。

生徒募集も、チラシの時代からホームページの時代になり、今の親は、必ずネットで習いごとを検索するので、ホームページを持つことは絶対必要である、と話されていました。

両親ともに、そろばん塾教師であり、何もかもがそろつている二代目の私にとって、ゼロから起業された石井社長のお話は、すべてが耳に痛いお話をあり、常にマンネリ化を避ける工夫が必要である、というお話しは、とつても、ためになり貴重なものとなりました。

私の父が、全珠連会員になつてから、六十年以上の歳月が流れています。六十年以上、教室を経営してきた両親の努力は、石井社長の足元にも及ばないかもしれません、昔から自分で、問題を各級ごとにガリ版で作つて、毎晩のように刷つていた父、十五そろばんも、手づくりで、いくつも作つていました。

今年度は、北遠地区の担当といふことで浜北区内での開催になり、他地区の先生方にはお時間をかけてのご参加をいただき、心より感謝申し上げます。また、西部地区での開催にも関わらず、志太・榛原地区の久保寺先生と青木先生の御両名にも参加していただき、併せてお礼申し上げます。

今回の研修会は、午前中の部は、我が北遠地区のホープ竹内史寿先生

ては、それには毎日、絶えず工夫をして時代の変化に対応していくことが大切なのだ……と、石井社長のお話を、肝に命じて、風の強い中、会館を後にしました。

とても思い出に残る一日でした。

平成二十六年度 三地区合同研修会

に参加して
北遠地区 高林靖子

による「そろばん教室のIT化」IT活用のアプローチとEXCEL利用術、そして午後の部は、岐阜聖徳学園大学教育学部教授であり、全珠連学術顧問でもあります上垣涉先生を講師にお招きし、「小学校低学年の算数とそろばん」と題してご指導をいただきました。御両名の先生方に大変お忙しいところとても貴重な時間を割いてご指導いただきましたことをこの場をかりて心から感謝申し上げます。

◆午前の部◆

「そろばん教室のIT化 EXCEL利用術」

竹内先生からは、
①ITを使ってどんなことができ
るのか？
②EXCELの活用術

の二点についてお話をいただきました。

ITを使つてどんなことができるのか？という点については、「読み上げ算」の音声を音声合成のソフトを使ってできるというや各科目のタイムを自動計時にするアシスタントを使つてできるというものができます。さらには生徒の入退室を保護者にメールで通知するシステムなどを紹介いただきました。

あつたらしいなあと思うものがこ
うして実現可能になるということに驚きと同時にこれらを上手に活用できれば「そろばん」業界の更なる

発展に期待できるような気がしました。特に、読み上げ算が全く不得意な私にとっては、音声合成による「読み上げ算」は朗報でした。「読み上げ算」は、耳で聞いて、脳で瞬時に判断し、祖先の動きにつながるという点では、まさしく脳の活性化には欠かせない「そろばん」ならではの素晴らしい種目だと思います。わかつてはいても教室では指導をしながら読み上げ算の時間をとれていらないのが実情。もし、パソコンのボタン操作一つで「読み上げ算」を可能にできるなら、もっと子供たちに「読み上げ算」を経験させてあげられるのではないかなどと思いました。

◆午後の部◆

「小学校低学年の算数とそろばん」

上垣先生からは、「数の概念」から「数」が認識されるまでの経緯や「数詞」や「数字」の誕生の歴史的経緯、また先人たちが計算する道具として使用していた現代の「そろばん」の元祖のような「西洋そろばん」のご紹介など、多くの知識を私たちに教えていただきました。

その中でも「数の概念」から「数」に至る経緯については、低学年の生徒を指導するうえで大いに参考になりましたので、私のつたないレポートで大変恐縮ですがご報告させていただきます。

小学校低学年の算数で大切なことは、
①数の概念を一層明瞭にする。

パソコン操作ではなく、多くの情報をうまく使いこなすための道具としてある」とおっしゃいました。様々な情報が飛び交う現代では、その情報を使うまで利用できるか否かで事業の発展がある、と言つても過言ではないかも知れません。しかし正直言つて、パソコンの活用が得意ではない私にとっては便利だとわかつていてもなかなか一步先に踏み込めないのが実情です。それでも、宝のもちぐされにならないように、パソコンと向き合つていただいかなと思いました。

②加減乗除の基礎を身につける。
③長さ・かさ・重さを理解する。

「数の概念」というものが、私たちは当たり前だと思っていても、児から小学校低学年の段階では、まだはつきりと明確化できていない場合もあるのだという点については認識不足であったと実感しました。

「数の概念」は、文字がなかつた「先史時代」から生まれていたそうです。それは、動物の骨に刻み目をつけて、その刻み目一つが物品一個を表すというものでしたが、そこには「数」という認識はまだできていませんでした。それから、「数」というものが誕生するわけですが、最初は「物の集まり（集合）」の比較から「数」が生まれました。例えば、人参7本に対してもウサギが6匹の絵が並べてあります。それぞれ一つずつを線で結んでいくと人参が1本多いことがわかります。つまり「1対1対応」によりどちらかが多いかを判定するわけです。

先生がおっしゃるには、「数をえる」と「数を知つている」とは違うとのことです。実際、数を数えることができる幼稚園児にいくつかのりんごを数えさせます。例えば6個しかないリンゴなのに「いち・にさん・：はち」まで数えてしまふそうです。つまり数の「いち」が「りんご一個」に対応していないからで

す。「1対1対応」の認識がないために、数字を「数」と認識できないないということです。なるほどと思いました。

小学校一年生の算数の学習指導要領では、

①ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味を理解して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。

ア、ものとものとを対応させる

ことによって、ものの個数を比べること。表したりすること。(以下省略)

と記載されています。まさに「1対1対応」の原理から数を学んでいくわけです。

では、「数」は、どのようにして生まれたのでしょうか?

私たちは、「赤い鉛筆・赤い布・赤い鳥」などの一側面を抽象化して

「赤」というものを認識しています。

つまり、「赤いもの」は存在しますが、「赤」そのものは存在しません。

それと同じで、「2本の鉛筆・2個のリンゴ・2匹の熊」などの一側面を抽象化して「2」を理解しているのであって、「2つのもの」は存在しますが、「2」そのものは存在しません。また、「2」を理解するうえで、「2本の鉛筆」だけでは不十分。「2本の鉛筆・2個のリンゴ・2匹の熊」

など、いくつかの集合の集まりから抽象化された数「2」が獲得されるためには、「集合の集合」が構成され、二段階の抽象化がされなければならなかつたのです。

さらに、この抽象化された数「2」を視覚的に表現するために「半具体物」が必要になるのです(小学校算数では「半具体物」としてブロックやタイルが使用されています)。「半具体物」によって視覚的に表現されたものがエジプト数字、バビロニアの楔形数字、ローマ数字、マヤ数字、中国(日本)数字です。そして、

現在私たちが使用している「算用数字」(これは、最初インドで発明され、それがアラビアに伝わり、それからヨーロッパに伝わったのであるから、正しくは「インド・アラビア数字」と呼ばれる)が使われるまでには永い歴史がありました。

上垣先生は、「そろばんの珠は、半

珠」という考へ方があり、珠が1珠と5珠がある。珠と5珠は同じ大きさですから、5珠一つで「5」であるという「とりきめ」を理解させる必要があります。

最後に、「そろばんの五つの特徴

簡単にご報告させていただきます。

*第1の特徴

十進位取り法がハード的に明確になっている。位に珠が9個しか入らないので、10の補数の理解に有利。

*第2の特徴

「5のかたまり」という考へ方がとりいれられている。「そろばん」では、1珠と5珠があり、6以上の数は「5といくつ」として認識されるようになります。

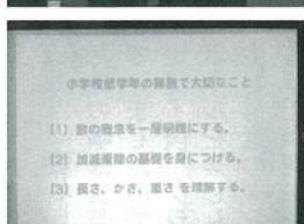
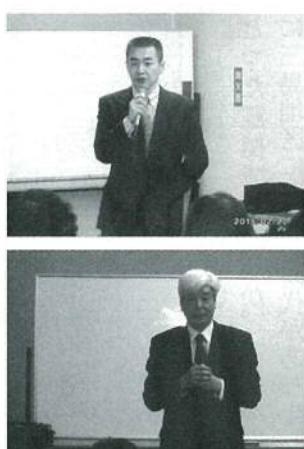
として認識されるようになります。そのため、数の認識・把握にとつて適切な方法である。

*第3の特徴

計算の途中が見える。電卓では、計算の途中が見えない「プラックボックス」であるが、そろばんによる計算は途中が見える「ホワイトボックス」であるため、そろばんがなくとも頭の中で計算ができる。

*第4の特徴

四則計算以外にも使用できる。十進法を原理とする内容であれば、すべて適用できる。



(例) メートル法のしくみ、単位換算。

*第5の特徴

集中力の養成・精神の統一、計算能力を身に付けつつ、集中力が養えるということは「一兔を追つて二兔を得る」ことになる。

小学校3年生と4年生の算数の学習指導要領に「そろばん」が取り入れられています。地域によって、温度差は多少あると思いますが、子供たちに聞くと、ほんの数時間程度の授業時間で簡単にさらっと流す程度のようです。これらのすばらしい特徴がある「そろばん」を、小学校の学習教具としてもっと取り入れてもらえたらしいなあと思います。

私の教室にはまだ幼稚園児の生徒はいませんが、一年生の生徒が少しずつですが入学してきます。数年前までは、三年生からの入学が主流、早くても二年生からと思つていました。はつきり言つて、「数」について理解できていれば、指導する側もとても楽です。実際、小学校一年生の理解度合いが高まると、指導する側もとても楽です。実際、小学校一年生の理解度合いが高まると、指導する側もとても楽です。

最初は、位取りの説明にも四苦八苦した経験があります。しかし、営業面で考えると、来るものは拒んでいたらマイナスであることは一目瞭然です。これからは「来るものは拒まず」の精神でいかないと教室経営も厳しいのかもしれません。小学校低学年の受け入れには消極的な私でしたが、先生のお話を聞いて、幼稚園児や一年生では「数の概念」というものがまだ明確化されていないということ、そして、「数」＝「ものの数」を理解させるまでには、段階があるということがわかりました。それらのことを指導者の私たちが認識できていれば、低学年の生徒も積極的に受け入れる対応ができるような気がして、少し気持ちが楽になりました。「そろばん」を習いに来るなら、「数」を理解していく当たり前」という先入観は捨てなければならないということも実感しました。

また、出生率の低下から高齢化社会が益々進み、私が住む地域の小学校も各学年1~2クラスです。全ての子供たちがそろばん塾に通ってくれたら万々歳ですが、現代は習い事も多様化しています。その中で、「そろばん」を選んで通わせてくれている保護者の皆様にも感謝の気持ちを忘れない事も大切だと思います。

そして、研修の最後に、研修当日の二月二十二日の「毎日新聞」朝刊の「余録」欄に「そろばん」に関する

には、最近そろばん人気が復活してること、計算力だけでなく集中力や記憶力も高める効果があることが見直され、暗算部門の受験者が増えていること、「そろばん」は脳の老化を防ぎ、認知症予防にもつながる、ということが書いてありました。

余談になりますが、先日、フジテレビのバラエティ番組に出演されたいた脳科学者澤口俊之先生が、「子供に習わせると良い習い事」として「ピアノ・そろばん・サッカー」の三つをあげていました。私は、それを聞いて「そろばんをあげてくれた!!」とテレビの前で思わずガツツボーズをとってしまいました(笑)。

最近では、このように「そろばん」について時々マスメディアが取り上げてくれています。それは、「そろばん業界」へのエールのように聞こえ、指導者の私達にとって、とても心強いものに感じます。どんなに時代が進歩しても、学習の基本は何といつても「読み・書き・そろばん」だけ私は思っています。これからも、自分の仕事に誇りをもつて頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の研修会の開催に際し、研修委員の先生方には大変ご尽力いただきましたこと、心から感謝申し上げます本当にありがとうございました。

「昔は良かった」というのは年をとった証拠でしょうか。でも本当に三島地区にも良い時代がありました。全盛期は昭和四十三年から二十年間くらいでしょうか。当時は、会員十八名中男性が十一名と圧倒的に多かったためか、何かを決めるにしても、話がテキパキと進んでいたように思います。さらに、四十六年には故長島万吉先生が五十二代支部長となり、故中川正三先生が事務長を勤め、荒木貞好先生が広報部長、小池良寿先生が研修部を引受け、故廣瀬孝先生が競技部、内田久仁義先生が広報、故鈴木武夫先生が塾対、故菅谷春吉先生が会計と、主な部署はほとんど男性会員が受け持つてくださり、検定副部長の故須藤美代子先生、地区長の私を含め、本当に仕事がスムーズに運営されていました。

特に故菅谷先生は、経理に詳しく、毎年、私達女性部は、一月検定終了後先生の自宅へ押しかけ、税金対策に、お知恵を貸して頂きました。

何だか楽しいお遊びの思い出ばかりになってしましましたが、あの頃の研修会は、勉強の後にいろいろお楽しみがあつたので、皆のまどまりもよく、次の研修会にも出席しようと、という意欲が湧いたのではないかと思います。

最近の研修会は、検定終了後に一、三時間勉強してそのまま解散、というスタイルになっていますが、もう

三島昨今物語

霜田文子

「私」に、本当に懐かしく思い出されます。

あの頃は皆若く、体力もあり余っていましたので、三島南高校での検定終了後、グラウンドに出てソフトボールを楽しんだり、廊下で小池先生お得意のダンスを足の裏が痛くなるほど練習したり……しかも一度も音楽に合わせて踊つたこともないのに、皆で大場のダンスホールへ押しかけて大恥をかいた、などということもあります。

二十年位前までは、地区別研修会も東地区でまとまって、一泊研修を行っていました。勉強後は、持ち寄りのお米や、靴下等の景品を並べて、くじ引きをしたり、東豆の園部先生がご存命の頃など、先生は「俳人」でいらっしゃいましたので、全員に白紙を渡し、お題を「春」と決めて、十五分間に一句ずつ作つたり……

確かに一等は東豆の大竹先生だったと思います。私は三等で、園部先生の、「御本」をいただきました。

何だか楽しいお遊びの思い出ばかりになってしまいましたが、あの頃の研修会は、勉強の後にいろいろお楽しみがあつたので、皆のまどまりもよく、次の研修会にも出席しようと、という意欲が湧いたのではないかなと思います。

最近の研修会は、検定終了後に一、三時間勉強してそのまま解散、というスタイルになっていますが、もう

少し会員同士の親睦を深める時間が少しあつても良いのでは、という気がします。

現在、三島地区の会員は十二名（男性四名・女性八名）そのほとんどが七十年代となりましたが、勉強への意欲は満々で、小学校への「出前授業」も東豆に続いていち早く実施し、私も老骨に鞭打って何校かに出向きました。

現在は函南地区の先生方で「出前授業」を継続しております。

会員番号五番～八番、正会員四名から始まつた三島地区、あれから五十年会員番号一桁は私一人となり、昔を知る数少ない人間（化石かな？）になりました。

これからも三島地区の御意見番として、地区の発展のためにお役に立つれば……と思つております。

平成二十六年度

第三回理事会(常任委員会) 臨時社員総会(全珠連臨時総会) 開催

会が開催されました。

第三回理事会(常任委員会)

会長(支部長)挨拶後、定足数の報告・議長及び議事録書名人の選任が行われ議事に入る。

○定足数の報告

協会	役員総数18名	議決権 16名
支部	出席総数18名	本人出席 18名

(1)一般社団法人 静岡県珠算協会
「平成二十七年度事業計画」(案)
に関する件：別紙配布資料にて説明(深澤総務部長より)

※原案どおり承認・可決された。

(2)公益社団法人 全国珠算教育連盟
静岡県支部「平成二十七年度事業計画」(案)に関する件：別紙配布資料にて説明(深澤総務部長より)

※原案どおり承認・可決された。
通信競技を従来の6会場から3会場にしていく事を検討している。

開催時間等、本部との関係を検討していく必要がある。

(3)公益社団法人 全国珠算教育連盟
静岡県支部「平成二十七年度収支予算(案)に関する件：別紙配布資料にて説明(栗田会計部長より)

※原案どおり承認・可決された。

(4)一般社団法人 静岡県珠算協会
「平成二十七年度収支予算」(案)
に関する件：別紙配布資料にて説明(栗田会計部長より)

※原案どおり承認・可決された。

(5)「平成二十七年～二十八年度役員」(案)に関する件および「顧問・参与推載」(案)に関する件については、静岡県珠算協会の理事

会による会長の承認選挙もあるので、四月十二日の臨時社員総会及び臨時総会で発表させて頂きますのでご了承ください。

その他

「本部・支部連絡協議会報告」松村支部長より

①平成二十七年度最優先施策：若年層会員の入会対策について別紙配布資料にて説明

△1. の会費助成による増加策の支部対応について：配布資料の通り

1. の (2)

*助成期間(2年)の支部会費は免除する(年間7,000円)：

役員会にて決定。

*地区会費については、地区事情

していく必要がある。
別途講習会には下記の書類を提出する。：珠算指導者講習会開催申込書・珠算指導者講習会実施報告書・珠算指導者講習会出講報告書

があるため各地区に一任する。

*静岡県珠算協会については、入会

②△3. のそろばん指導者を目指す方の研修会開催について：配布資料の3. の(ア)

配布資料のレッツ・ソロバン研修会情報参照

日 時 平成二十七年八月六日～八月八日

会場 全珠連本部事務局
参加資格 50才未満の方
申込期間 平成二十七年四月一日～六月三十日

参加料 10,000円
「試験委員委嘱講習会」について
珠算教育士を取得して(5年間の
猶予期間有り)「試験委員委嘱講
習会」を受講していないと全珠連
検定試験の試験監督が出来ない。

平成二十七年五月一〇日の「試験
委員委嘱講習会」に欠席される方

については、各地区で地区長又は
検定委員が講師となつて別途講習
会を開催して頂きたく。

別途講習会には下記の書類を提出する。：珠算指導者講習会開催申込書・珠算指導者講習会実施報告書・珠算指導者講習会出講報告書
「会計部」より栗田会計部長
①支部事務局の事務員から旅費交通費支給について請求があり正副支
部長で検討した結果、下記費用を
平成二十七年度から支給する事に

開催してください。

別途講習会には下記の書類を支部事務局へ提出してください。(開催時期の一ヶ月前までに本部へ提出)

*珠算指導者講習会開催申込書・珠算指導者講習会実施報告書・珠算指導者講習会出講報告書

▼平成二十七年五月一〇日の試験委員委嘱講習会を受講していないと、平成二十七年七月からの検定試験は自身の教場では出来ません。五月一〇日に受講出来ない会員は五月三十一日の検定試験終了後受講(前述の地区長または検定委員が講師)すれば良い。2時間2単位の講習が必要です。(杉山忠郎本部理事より)



▼七月から入会の新入会員について
は(五月一〇日現在非会員)試験委員委嘱講習会を受講し、入会手続き後(七月一日)珠算教育士取得の猶予期間の申請をすれば、自身の教場で検定試験を実施出来る(杉山忠郎本部理事より)

総務・厚生だより

◎お悔やみ申し上げます

近田紀代子先生(北遠地区)

柴田雅代先生(沼津地区)

義母様

実母様

六月・七月の行事予定

○六月六日(土)	そろばんの日申請締切(地区)
○六月七日(日)	第一回全珠連検定部会
○六月十二日(金)	第一回暗算検定部会
○六月二十一日(日)	第六回段位審査会
○六月二十六日(金)	そろばんの日申請締切(支部)
○七月五日(日)	第一回正副支部長会
○七月九日(日)	第一回執行部長会
○七月十二日(日)	第一回地区長会
○七月十九日(日)	第一回会計部会
○七月二十六日(日)	第一回期末監査会
○七月二十八日(日)	第三百六十八回全珠連珠算検定

第366回 全珠連【珠算】検定試験受験数報告書

○囲みの数字は受験料免除者 試験日: 段位~ 平成26年11月30日施行

地区	段位	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	11級	12級	13級	14級	15級	合計	前年同期
賀茂	4	6	5	4	0	1	0	0	0	3	3	1	2	1	2	1	33	38
東豆	19	18	17	26	15	3	14	5	5	1	0	0	0	0	0	0	123	154
三島	9	12	14	29	11	18	13	3	11	6	8	0	3	4	0	1	142	126
沼津	27	19	14	28	20	18	16	20	10	13	11	2	4	1	4	1	208	173
富士	12	10	19	12	4	4	2	5	3	2	0	0	0	0	0	0	73	73
清水	28	8	9	13	8	9	15	7	6	4	3	3	2	2	1	1	119	103
静岡	58	43	42	49	33	29	29	29	18	12	8	1	1	4	0	0	356	346
志太棲原	46	21	23	21	9	11	12	11	15	1	0	0	0	0	0	0	170	220
中遠	②40	34	①31	⑤42	⑦14	③4	⑪10	⑥4	③6	②6	①2	0	0	0	0	④193	191	
浜松	183	75	109	111	27	28	28	30	21	5	3	0	0	1	0	0	621	649
北遠	46	45	60	35	23	20	14	6	7	3	4	0	0	0	0	0	263	324
総合計	②472	291	①343	⑤370	⑦164	③145	⑪153	⑥120	③102	②56	①42	7	12	13	7	④2,301	2,397	
前年同期	485	③306	①339	⑤388	②172	④194	⑧160	③116	②87	④66	⑤45	6	12	8	9	④2,397		

第366回 全珠連【暗算】検定試験受験者数報告書

段位: 平成27年3月22日施行 1級~8級: 平成27年4月26日施行

地 区	段 位	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	合 計	前年同期
賀 茂	1	1	2	1	1	1	1	2	2	12	12
東 豆	20	13	10	17	22	12	14	0	0	108	88
三 島	6	5	4	8	8	14	3	8	4	60	64
沼 津	14	4	9	7	19	14	10	5	5	87	83
富 士	9	3	3	10	7	6	2	0	0	40	44
清 水	16	2	11	4	18	10	13	3	1	78	61
静 署	28	9	11	11	16	19	11	10	12	127	123
志 太 棚 原	27	14	11	8	13	9	6	0	0	88	107
中 遠	32	18	19	38	17	20	6	3	1	154	145
浜 松	110	31	29	56	54	54	30	5	0	369	393
北 遠	32	18	19	10	18	11	16	0	0	124	147
合 計	295	118	128	170	193	170	112	36	25	1,247	1,267
前年同期	283	127	136	162	173	166	179	27	14	1,267	

昇段者氏名

◎第三六六回 暗算検定試験

九 段	八 段	七 段	六 段
山 杉	柴 田	知 暖	静岡森下小2年
下 知	真 衣	浜松佐鳴台小4年	
映 奈	浜 松	雄 踏 小6年	
大 知	富 士	宮 富 士見 小6年	
奈	国 立	静岡大2年	
磐 田	藤 枝	高 洲 南 小5年	
豊 田	大 附 属	島 田 中3年	
南 小5年	磐 田	青 城 小5年	

第366回 静珠協珠算検定試験受験者数報告書

4級~10級: 平成27年4月26日施行

地 区	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	9 級	10 級	合 計	前年同期
賀 茂	4	3		1	1	1	1	11	10
東 豆	11	14	11	9	7			52	61
三 島	10	11	12	6	16	9	9	73	69
沼 津	9	5	1	3	2			20	32
富 士	10	3	6	3	5	2	8	37	39
清 水	5	5	1	2	4	3	1	21	28
静 署	15	14	15	11	5	9	5	74	90
志 太 棚 原	16	16	18	12	14	9	6	91	94
中 遠	15	13	13	8	11	6	4	70	79
浜 松	51	36	47	44	31	7	5	221	206
北 遠	8	6	10	9	7	4	4	48	88
合 計	154	126	134	108	103	50	43	718	796
前年同期	135	148	173	139	101	54	46	796	

四 段

大 沼	一 色	西 望	月 菜	夕 子	加 藍	誠
小 沼	井 金	子 松	木 田	陽 菜	木 茗	伊 東 東 小 4 年
西 望	月 菜	夕 子	夕 子	夕 子	夕 子	伊 東 東 小 5 年
一 色	井 金	子 松	木 田	陽 菜	木 茗	加 藍
加 藍	木 茗	伊 東 東 小 4 年	伊 東 東 小 5 年	伊 東 東 小 4 年	伊 東 東 小 5 年	伊 東 東 小 4 年
誠	伊 東 東 小 4 年	伊 東 東 小 5 年	伊 東 東 小 4 年	伊 東 東 小 5 年	伊 東 東 小 4 年	伊 東 東 小 4 年

◎第三六六回 珠算検定試験

松 田	鈴 木	松 田	鈴 木	松 田	鈴 木	松 田
ま な み	ま な み	ま な み	ま な み	ま な み	ま な み	ま な み
み か ら	み か ら	み か ら	み か ら	み か ら	み か ら	み か ら
彼 方	彼 方	彼 方	彼 方	彼 方	彼 方	彼 方
有 里	有 里	有 里	有 里	有 里	有 里	有 里
京 花	京 花	京 花	京 花	京 花	京 花	京 花
芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉
磐 田	磐 田	磐 田	磐 田	磐 田	磐 田	磐 田
竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋
北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年
6 年	6 年	6 年	6 年	6 年	6 年	6 年

参 段

準 四 段

松 田	長 谷 川	伊 熊	高 田	鈴 木	松 田
ま な み	ま な み	ま な み	ま な み	ま な み	ま な み
み か ら	み か ら	み か ら	み か ら	み か ら	み か ら
彼 方	彼 方	彼 方	彼 方	彼 方	彼 方
有 里	有 里	有 里	有 里	有 里	有 里
京 花	京 花	京 花	京 花	京 花	京 花
芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉	芭 蕉
磐 田	磐 田	磐 田	磐 田	磐 田	磐 田
竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋	竜 洋
北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年	北 6 年
6 年	6 年	6 年	6 年	6 年	6 年

参 段

準 四 段

植 村	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水	田 代	松 本	田 中	清 水
清 水	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 代	松 本	田 中	清 水	田 代	松 本
松 本	田 代	松 本	田 中	清 水	田 代
田 中	清 水				